



羽合小学校 学校通信

平成26年5月8日 NO, 19

指導の心がけ 3 + 1

先日、女子サッカーU17のワールドカップで日本チームが優勝したのをご存じの方も多いのではないのでしょうか。そのチームのコーチとして選手を指導してこられた大部由美さんの講演を聞くことができました。その中で、特に印象に残ったのが、指導の時に心がけておられる3つのことでした。

Quick 迅速に

指導するときは、その時を逃さず迅速に行うこと。こどもたちの記憶が明確なうちに指導すると効果的であること。

Simple 単純に 明確に

指導するときは、何を、どうすればよいか明確に伝えと効果的であること。

To the point 的を絞って

指導するときは、あれもこれも盛り込まず、的を絞って指導すると効果的であること。

日本サッカー協会のナショナルトレセンコーチとして活躍される一方、出身地の境港市でもこどもたちの指導にあたっておられる現役の指導者の方の言ですから、説得力があります。サッカーの技術的なこと、チームとしての戦術や戦略のこと、それを支える生活のこと、指導の場面が山ほどある中でたどり着いた結論だと思うからです。

この3つは、わたしたち教職員にも保護者の方にも共通する指導の極意のような気がします。特にこどもたちに直してほしいことがある時など心がけたいものです。

もうひとつ付け加えられたことがあります。それは、「ついでに叱らない」ということです。あることで指導している時、別のことも引っ張り出して叱らないということですが、いかがでしょうか。

あいさつができない子供は練習させません。自分の荷物を親に持たせる子供は練習させません。必ずやり直しをさせるそうです。私も大切なことだと思います。自分で考え行動できる、甘えを捨て、自立した自分になることが成長するということです。そのためにスポーツもあるのです。

【全校集会で】

1日の全校集会では「だまって」そうじすることについて話しました。スポーツの練習で、だらだらしゃべりながら練習するチームに優秀なチームはありません。一所懸命取り組んでいるのなら、雑談などできないからです。しゃべっているのは一所懸命ではないからです。一所懸命練習に取り組むチームが強くなるのは当たり前です。労を惜しまずみんなのために一所懸命そうじのできる人になってほしい。だから「だまって」そうじすることにこだわります。 羽合小 寺谷英則